

日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」連動企画（奇数号掲載）

## フォトルポ 被災地は今

みやぎ生協理事（県北ボランティアセンター長） 春日京子理事×山田省蔵カメラマン

※日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にご寄稿いただいた組合員理事と一緒に現地を歩き、「被災地」の今を写真でお伝えします。（取材日時：12月11・12日、場所：宮城県気仙沼市）



「この銅像は、気仙沼出身の第9代横綱、秀ノ山雷五郎です。周りのものが津波の被害を受けていた中、流されずに力強く『残った』ものです。この銅像のように、負けない気仙沼をつくっていきます」（春日理事・岩井崎にて）

### 震災から9カ月たった、現在の気仙沼市



大きな通りは復興してきているが、少し中に入ると、津波の被害を受けた姿のまま、復旧が進んでいない。



日本一海水浴場に近いという大谷海岸駅がある気仙沼線は、途切れたまま。「白砂青松」の美しい浜辺も消えた。



## 「ほっと」できる空間を提供

「ボランティアセンターでは、仮設住宅や集会所で、お茶会や『子育てひろば』を開き、ほっとできる空間を提供しています。先日は、男性の料理教室を行いました。その日作った料理のレシピがほしいと言われたときは、うれしかったですね。忘年会でみんなに食べてもらうのだそうです」（春日理事）



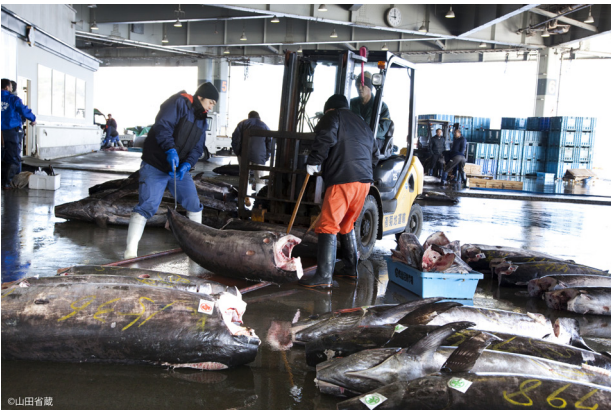
子育てひろばのクリスマス会。輪を投げて、入ったところのプレゼントがもらえる。



手作りのツリー。子どもたちの遊ぶ場所が少なくなった今、こうしてみんなで楽しめる空間は、大切。

「生協らしいなと思うところは、一方的な支援でないところです。企画や、実行など、被災された方も一緒にやっています。自治会長さんと連携して、ニーズを把握し、必要な機関、人につないでいくのが、私たちの役目だと思っています」（春日理事）

## 復興に向けて



市場は半分が再開。市場を拠点に、復興していきたい。



みやぎ生協理事（県北ボランティアセンター長） 春日 京子さん

春日理事の寄稿文は、日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にて、ご覧いただけます（<http://shinsai.jccu.coop/contents/009/>）。



奥に見えるのは「復興屋台村」。気仙沼は、力強く、前に進んでいる。